

研究ノート カムリの国の地名研究：落穂拾い（その4）

第2枝：地名パンディ *Pandy* -2-

水谷 宏

Lloffion: Astudiaethau Enwau Lleoedd yng Nghymru (4)

Yr Ail Gainc: *Pandy* -2-

Hiroshi Mizutani

承前

#### 4. *Pandy* の地名とカムリの国の羊毛産業

カムリの国の地名である「パンディ」*Pandy*（普通名詞の *pandy* の複数形は *pandai*）についての研究は、前稿の終わりに近いところで少し触れたように（「日本カムライグ研究」第3巻第2号 p. 37）、カムリの国の羊毛産業との関わりが深い。【羊毛産業】*woollen industry* という表現が多少気になるが、【羊毛生産、羊毛の生産】*woollen manufacturing, woollen production* といった表現のほうが適切かも知れない。というのは、Jenkins, J. Geraint (1969:xvii)（本稿の末尾に収録している参考文献を参照願いたい）にも、この国での羊毛の生産が、単に、自給自足の農村社会に必要な程度の供給をするという段階を過ぎ、イングランドのヨークシャーに匹敵する産業地域に発展する可能性を秘めていた地域もなくはなかったが、カムリの国の羊毛生産の最盛期においてすら、組織力・資本力が不十分であったために、「こうした可能性が実現することはなかった」との指摘が見られるからである。事実、同書を読んでいると、羊毛を作る仕事に関して、「家庭内の作業」‘*domestic craft*’ (p. 82.), 「家内産業」‘*domestic industry*’ (p. 114.) といった表現に多々出会うのである。いずれにしても、パンディの地名研究は、カムリの国における羊毛生産の発展と衰退の歴史に深く関わっているのである。事実、ジェンキンズ博士は、カムリの国の羊毛産業 *Welsh Woollen Industry* について記述するにあたり、同書（上掲）のあちこちで、カムリにおける地名研究の大御所である Melville Richards 教授からの情報提供に対しての謝辞を繰り返しておられるのである。カムリの国の羊毛産業の詳細についての記述は、その機会に恵まれれば別稿に譲り、本稿においては、地名のパンディ *Pandy* に関係の深いことだけについて述べるに留める。さしあたっては、参考文献に挙げた羊毛生産関係の文献を参考にさせていただければ幸いである。

前稿でも触れたように、羊毛を縮絨する作業は、ローマ人によってローマ時代に既にブリテン島にもたらされた技術の一つであるとされており (Jenkins, J. Geraint (1969:81)、カムライグ語 *pan* 'fulling' はラテン語 *pannus* 'cloth' からの借用であり、同語源にはブルトン語 *pan~n*, コーンウォール語 *pan* があることから、カムライグ語の前身であるブリティッシュ方言の時代から用いられていた (Melville Richards (1969:351) 'Welsh Place and Personal Names Connected with the Woollen Industry', *Appendix 1*, pp. 351-372. in Jenkins, J. Geraint (1969).)。しかし、14世紀までは足で踏んで縮絨する方法が採られていて、中世から19世紀にかけては、カムリでは 'walk mills' [歩行(による)縮絨場] の呼び名も広く用いられていたようである (Jenkins, J. Geraint. (1969:81-2)。

しかしながら、14世紀に地域住民のみを対象とする家内生産的なものからより商業的な「事業」と呼べる段階への発達が見られ、その中心となる技術革新の一つが、カムリの国に極めて豊富な水力を利用する「縮絨水車小屋」*pandy* の導入であった (Jenkins, J. Geraint (1969:101-2)。

カムリにおける最初のパンディの設置は、1300年ごろのペンヴロ州 Sir Benfro との説もあるが (Mendenhall, T.C. (1953) *The Shrewsbury Drapers and the Welsh Wool Trade in the XVI and XVII centuries*.—ただし、筆者は未見)、Melville Richards 教授のジェンキンス博士への示唆によれば、その5年前の1295年の「ドール・ア・セーネ」*Dol-y-sece* というところとの説もある (Jenkins, J. Geraint (1969:101)。この地名は中世の地名であり、現在、その位置を確かめる方法はないものの、ジェンキンス博士は、ブラヘイニオグ州 Sir Frycheiniog ([英名] Brecknockshire または Breconshire) のPontセニ *Pontsenni* / [英名] *Senny Bridge* の可能性が高いとしている (Jenkins, J. Geraint (1969:102)。Pontセニ (22/9228) は、サナムザヴリ *Llanymddyfri* (22/7634) (口語ではサンダヴリ *Llandyfri*, [英名] *Llandoverly*) とアベルホンジー *Aberhonndu* (32/0428) ([英名] *Brecon*) とを結ぶA40号線上にあり、中間点よりややアベルホンジー寄りの地点である。セニ川 *Afon Senni* が南から北に向かってPontセニの村を通り過ぎたあたりで、ウイスグ川 *Afon Wysg* の上流に注いでいる。今の時点では、発掘調査の方法でも用いない限り、このセニ川の周辺にパンディが存在した証拠を見つけることは不可能である